

9月1日は「防災の日」  
9月5日までは「防災週間」

備えて安心、わが家の防災

昨年は、北海道で台風による被害、今年も九州で集中豪雨による被害が発生しています。

この機会に、「災害時の集合場所や避難方法」「町が指定している避難所」「災害時に持ち出す貴重品や防災グッズ」を確認して、いざという時に備えましょう。

早め早めの避難を！

災害が発生し町から避難勧告などがあつた場合は、速やかに避難し、町職員や警察官の指示に従いましょう。また、災害情報をもう一度確認しましょう。

（避難準備・高齢者等避難開始）

◆今後、避難勧告などが発令される可能性が高い時、住民の避難準備を促すために出される

（避難勧告）

◆災害が発生する恐れがある場合、避難所などへの避難を勧めるために出される

（避難指示）

◆災害が発生している、もしくは発生する恐れが非常に高いと

判断された時に出される



台風に備えましょう

8月から9月にかけては、1年で最も台風の発生・接近・上陸が多くなる時期となります。

台風による災害から身を守るために、次のことに注意しましょう。

（台風が接近する前）

◆避難所あるいは避難所までの経路、危険な場所を家族で確認しておく

◆屋外の植木など飛散しそうなものは、屋内に片付けておく

◆低い土地や斜面、川のそばに住んでいる方は早めの避難を検討する

（台風が接近して大雨や暴風の影響を受け始めた時）

◆なるべく外出は避ける

◆避難準備・高齢者等避難開始や避難勧告、避難指示などのお知

らせに注意する。また、指示などがなくても、自ら危険を感じたら屋内の安全な場所に移動または避難する

◆アンテナなどを補修するために屋根に登ることは絶対しない

◆増水した川には絶対に近づかない。また、台風が温帯低気圧に変わっても近づかない

日ごろから、台風の接近に備えてテレビやラジオ、気象庁のホームページなどで最新の気象情報をチェックしてください。

気象庁では、今年7月から大雨警報（浸水害）と洪水警報の危険度を色分けして地図上に示した

「危険度分布」の提供をホームページで開始しました。「危険度分布」により浸水や洪水が発生する危険度が高まっている地域を簡単に把握できる

ので、台風の接近が予想される時や影響を受け始めた場合にぜひ活用してください。

【問い合わせ】

町総務課広報・防災・情報グループ ☎7501

栗山警察署 ☎0110  
札幌管区気象台天気相談所 ☎011(611)0170

【プロフィール】

みうら ひろし  
昭和52年、青森県生まれ。中央3丁目在住。奥尻消防署の消防士を務めていたが、平成28年4月に移住。北海道南西沖地震による被災体験を伝えるため、全国各地を回っている。防災士、防災介助士、北海道地域防災マスター、潜水士の資格も取得している。社会福祉法人栗山ゆりの会グループホーム拓心荘に勤務。

ます。ぜひ、そのことを意識してもらいたいです」と三浦さん。

最後に、「経験したことを語ることで助かる命があります。そして、命を守ることができ

ます。これからはいろいろな場で命の大切さと、津波に限らず自然災害から命を守るために必要なことを多くの人に伝えたいです

し、皆さんの行動につながればよいと思っています」と話してくれました。

緊急速報メール（エリアメール）を配信

町は地震などの災害が発生した時、災害・避難情報を町民の皆さんに携帯電話でお知らせするメールサービスを利用しています。

今回の総合防災訓練で、避難情報伝達広報訓練としてメール配信を実施します。

このメールは、町内全域の緊急速報メール対応携帯電話の全てに配信されますので、お間違えのないようにご注意ください。

（配信内容）

【訓練】こちらは栗山町です。本日、午前8時、昨夜からの局地的大雨により河川の氾濫と土砂災害が発生する恐れがあることから、松風地域の一部、桜丘地域住民に避難勧告を発令しました。対象地域の皆さんは栗夢広場へ移動するなどの避難をしてください。

※これは訓練です。実際に避難勧告が発表された場合も緊急速報メールでお知らせします。

【問い合わせ】

町総務課広報・防災・情報グループ ☎7501

総合防災訓練を行います

今年、松風地域の一部と桜丘地域を対象とした総合防災訓練を行います。

災害が起きた時に落ち着いて行動するためには、防災訓練に参加する必要があります。いつ発生するかかわらない災害から、自身やご家族の生命、大切な財産を守るため、防災訓練に参加しましょう。

（実施内容）

◆日時

9月10日(日) 午前9時～正午

※雨天中止

◆場所

栗夢広場

◆対象地域

松風第1・第2、寺町、松風本町・第5、山の手、桜丘町内会

◆訓練内容

住民避難訓練、火災消火・救護訓練、応急手当訓練、炊き出し訓練など

◆災害体験

煙体験、災害伝言ダイヤル体験

◆展示

移動電源車、防災グッズ

※対象地域以外の方も、見学や災害体験コーナーを利用可

インタビュー

防災あつての日々の暮らし

子どもたちにも伝えたい

北海道南西沖地震による津波で被災した経験を持つ三浦 浩さん。被災したときの状況や教訓などについて語っていただきました。

平成16年に発生したスマトラ島沖地震（インドネシア）をきっかけに、北海道南西沖地震で経験したことを基にした語り部活動を始めた三浦さん。「北海道南西沖地震の経験を聞きたい」という声もあり活動を始めました。活動を通して多くの人に語り継ぎたい思いが強くなりましたし、命を守らなければならぬことを実感しました」と語り部活動に対する思いを語ります。三浦さんは、津波体験を後世に伝えるために、紙芝居「あまの坂へ いそげ」を制作。今年の6月には冊子にまとめて自費出版しています。

北海道南西沖地震では行方不明者を含め、奥尻島だけで198人の方が被災しました。三浦さんは、「助かるはずの命が、たくさん亡くなりました。私は『地震が起きたら急いで高い所に逃げろ』という祖父母の教えを日ごろから聞か

され意識していたので、避難もできたと命も守られました。『生かされた』という思いが強いです」と話し、被災したことで多くのことを学んだと言います。「実際に災害が起きた時、パニックになることがほとんどです。私は『防災あつての日々の暮らし』とあっており、日ごろから災害に備えることが重要だと考えています。それから、防災は次世代へつないでいかなければならないと思っています。大人が、防災の重要性や災害の恐ろしさを感じていけば、子どもたちにも伝わりやすくなります。津波は水害なので、内陸部に関係ないと思われる方もいますが、土砂災害や河川の増水時に心掛けるべきことに大きく関係してい



命の大切さを語りつなぐ代表

三浦 浩 さん(39歳)